

若い世代に農業の未来を考えてもらう ～福井県立大学との連携～

福井県立大学の学生を対象に、農林水産省の役割等に関する講義を行うとともに、持続的な米の生産や環境負荷低減に向けた取組について話し合うことで、農業の将来を考える機会を提供した。

○ 施策分類

米政策、みどりの食料システム戦略、食育

○ きっかけ・背景、課題の把握

県内の食や農に携わる人材育成の一助となるよう、令和元年度以降継続して、福井県立大学の学生に対し、農業の課題や農林水産省の役割等に関する講義を実施している。

○ 取組の内容

令和7年12月4日に福井県立大学生物資源学部創造農学科の学生31名に対し、日本農業の現状と課題や農林水産省の役割、昨今の米を取り巻く状況、みどりの食料システム戦略に関する講義を実施した。その後、学生を6つのグループに分け、「農家が持続的に米を生産するためには、どうすればよいか」や「環境への負荷を減らすために、自分達ができることは何か」をテーマとしたグループディスカッションを行った。

○ 効果・成果、今後の方向性

講義後のアンケートでは、「農業の現状を知ることができ、いい機会になった」・「これからの農業をどう変えていくか見直すことができた」等の意見が多く寄せられ、学生が農政への理解を深めるとともに、農業の将来について真剣に考える機会となった。

今後も継続して連携することで、学生に農業・農政への理解を広め、次世代へのバトンをつなげていきたい。



講義の様子



グループディスカッションの様子

体制図

